

ハッピー 子育てひろば



☆プロフィール☆
鈴木 裕美 (すずき ひろみ)
香川大学医学部 小児専門医

みなさん、こんにちは。
前回8号でお話した「ルール」ですが、ご家族で話し合っ、何かルールを決めましたか？まだ子どもが小学生だった頃、わが家でもゲーム機を買いました。その時決めたルールは、ゲームはリビングですることと、外出先に持っていかないことでした。

最近になって娘に、「なんでうちはみんなみたいに外に持って行ってはいけないのだろうと不満に思っていたけど、お母さんはルールを絶対変えないとわかっていたから、あえて言わなかったんだ。」と言われました。そうだったんだ・・・と思いながらちょっと返事に困って黙っていると、「でも、それでよかったと思うよ。」とフォローされてしまいました。なんか、ありがとう。。。でした。

今回は ④ 適切な期待感をもつ です。

大切にしてほしい「子育て5原則」

期待には3つの方向があります。

- 親が、子どもに対して持つ期待感
- 子どもが、親に対して持つ期待感
- 親が、自分はこうあるべきという期待感

親が、子どもに夢や期待をもつことは大事です。親の期待は、時に子どもを大きく伸ばす力になるし、逆にどうせだめだというマイナスの期待や、子どもが望まない期待は子どもの伸びる芽を摘んでしまうことにもなります。適切な「期待」の仕方、難しいですね。

大事なものは、今の子どもをどう見るか、そして次に上るべき段階は何かを正しく理解することです。

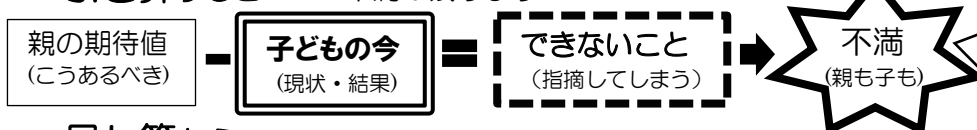
子どもは親に「自分が望んだことや選んだこと」を認め、一歩踏み出すことを「応援されたい」のです。



- ①安全・安心して過ごせる環境作り
- ②積極的に学べる環境作り
- ③一貫したわかりやすいしつけ
- ④適切な期待感をもつ
- ⑤親としての自分を大切にする

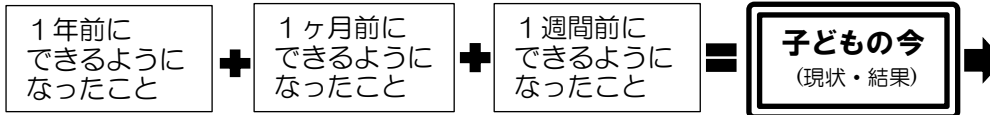
★ 子どもの「今」をどう見ますか。

引き算すると・・・不満が残ります



他の子と比べて、「できないこと」を指摘して責めると、やる気を失い、チャレンジをやめてしまいます。

足し算なら・・・前向きになれる



子どもが生まれた時は、床にたくさんの積み木がばらまかれている状態です。子どもと目が合った時、笑った時、首が座った時、立ち上がった時。一つ一つの発達は積み木を上重ねていく作業と同じです。どんな子どもも、そして私たち大人も積み木を一つずつ積み重ねて生きています。しかし、私たちはそんな積み木を見るよりは、まだ積みあがっていない積み木、隣にある高く積みあがった積み木が気になって仕方ありません。頑張っ一つ積んでも「まだ、こんなにあるよ」「他の人は、3倍のスピードで積んでるよ」と心無いことを言い、子どもの自己肯定感をつぶしてしまい、自分のことが嫌いな子どもをつくってしまいます。大きくなって困難にぶち当たった時、「私は積み木を頑張っ積み上げてきた。これからも積み上げていける」と自分の背中を自分で押せるようにするために大人が子どもの積み木だけを見て、もう一つ積み上げる勇気を育てなくてははいけません。